

第5回BAクリエイターズサロン実施概要

第5回BAクリエイターズサロンは、田中秀幸(たなか ひでゆき)氏(株式会社フレイムグラフィックス代表・アートディレクター)を講師にお招きして、為ヶ谷顧問(女子美術大学 大学院・教授)を座長として、10月9日(木)虎ノ門フォーラムで開催されました。今回は、アートディレクターを目指す若いクリエイターにとっても、またアートディレクターの仕事の役割などを知りたい人にとっても、今、最も活躍をしているアートディレクターから直接お話を聞くことが出来、また参加者との活発なディスカッションが行われるなど、有益であり、且つ楽しいサロンとなりました。

田中秀幸氏は、多摩美術大学グラフィックデザイン科出身で、テレビ番組やコマーシャル、広告などの分野で、アートディレクションからキャラクターデザイン、映像制作まで幅広く活躍をしておられます。92年にフジテレビで放映された『ウゴウゴルーガ』のCG制作に参加し、その後『OH!スーパーミルクチャン』のキャラクターデザインや、スキーをするダチョウのCM「JR-SKI キャンペーン」など、斬新な映像制作で大きな評価を受けておられます。一方、NHK デジタル・スタジアムのキュレーターとして、若手クリエイターの育成にも積極的に携わっておられます。田中秀幸さんは、初期に制作したテクノバンド・電気グルーヴのミュージックビデオにおける斬新な映像表現が話題となり、その作品がクリエイティブディレクター・アートディレクターの大貫卓也氏に認められ、アートディレクターとして活動を始めたことなど、ご自身の今までの経験を時間を追ってお話して頂いた事により、田中氏の新しい映像表現を追求する姿勢が、参加者にも大変良く伝わりました。そして、キャラクターデザインやプロモーションビデオなどとともに、CMなどの広告に関する仕事へと発展して行った様子が、一つ一つの作品を上映しながらお話いただくことが出来ました。ソフトバンク社キャメロン・ディアスのCMシリーズの制作では、30秒のワンカット(一発撮り)による映像表現を実現させるために、効果的な映像を如何に効率的に撮影するかなど、撮影前にCGでシミュレーションを行い、全ての撮影要件に対する緻密な計画を練った上での撮影を実施したことなど、アートディレクターの役割の大きさを知ることが出来ました。

アートディレクター、クリエイティブディレクターとして最も大事なことは、クライアントやクリエイターとの間のコミュニケーションであると、この講演の最後に締めくくられた。田中氏は、常に絵を描くことで人とのコミュニケーションを図ってきており、自ら学んできた絵を描くことが、仕事の上でも力となっているとのことでありました。若いクリエイターたちにとっては、多くの示唆に富んだお話をお聞きする事が出来ました。田中氏のますますのご活躍を、大いに期待したいと思います。

(文責 為ヶ谷)

